

阿弥陀山と太山寺



阿弥陀山からの眺望

阿弥陀山は、比良山系の最北端に位置しています。標高454mの山頂からは、広大な平野や琵琶湖、条件がよければ対岸まで一望することができます。

この山は、古くから西方浄土の信仰の対象とされ、地元の人々だけでなく、湖東の人々からも信仰されていました。

山麓にある三田集落は、かつて「弥陀」や「三田」の字に改めたとされています。「阿」は一本の道のこととされ、阿弥陀山が繁昌していた時の通行路であったことから、「弥陀（三田）阿」と呼ばれたと推測されています。また、三田集落の西方の共同墓地にある三味鳥居は、阿弥陀山を西方浄土に見立てて、そこに旅立つための入口と伝えられています。

阿弥陀山の名前は、江戸時代に記された地誌『近江輿地志略』によると、昔、この山の上に阿弥陀山太山寺という寺があったことに由来します。太山寺は、聖徳太子の創建と伝えられ、のちに「高島七か寺」の一つにも数えられま

す。中世の古文書である『朽木家古文書』には、元弘3年（1333）や建武2年（1335）、文明16年（1484）に太山寺の名が見られます。また、慶長7年（1602）の田中郷の検地帳には、実松坊、法泉坊、奥院、大仙坊、梅本坊などの地名が見られることから、中世には、多くの寺坊が存在していたことがうかがえます。中野の集落にある太子堂は、もとは太山寺の一堂でしたが、織田信長の焼き打ちに遭い再興されたものです。太子堂には、聖徳太子の絵伝や画像（高島市指定文化財）が残されており、絵伝の最後には、太山寺創建の一場面が描かれています。



本堂の基壇と礎石

太山寺の遺構は、阿弥陀山の南側中腹の字名「阿弥陀山」、通称「御屋敷」と呼ばれる範囲に広がります。最高所に位置し、最も広い本堂と考えられる平坦地に向かって、石段の道がのび、その両側に坊院と考えられる平坦地が階段状に並びます。また、一帯には堀切や土塁など防御のための遺構も見られることから、戦国時代に、城郭として改修された可能性も考えられます。

本堂跡には、石積の基壇が残るとともに、礎石（建物の柱を立てる石）が整然と並び、見る人を圧倒します。

図文化財課

☎(32) 4467

編集者のつぶやき

▼7月27日に開幕したロンドンオリンピック。今回、どのようなドラマが展開されるのでしょうか？楽しみです。▼表紙は、市内6地域の子育て支援センター合同で開催された子育て講座「親子でふれあい運動あそび」のようす。会場にはさまざまな遊具が用意され、子どもたちは夢中で遊んでいました。体を使う遊びは、運動能力の発達に良い影響を与えるそうです。将来、オリンピックに出場する子がでてるかも？（広報担当S）



広報たかしま

平成24年

8

月号

No.151

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒160-1000 滋賀県高島市新旭町北畑5の6番地



0740 (25) 8000(代)

http://www.city.takahima.shiga.jp

mailto:info@city.takahima.shiga.jp